

環境研究総合推進費 平成24年度新規課題  
RFe-1201 5-K001

## 環境面を強化したポストMDGs の開発とその実現のための 国際制度に関する研究

2013年3月15日

プロジェクトリーダー  
東京工業大学大学院社会理工学研究科准教授 蟹江憲史

【実施期間: 平成24年度、予算額: 9,341(千円)】

1

## 研究実施者の構成

### 共同研究者

サブテーマ1 MDGsの包括的評価と今後の方向に関する研究  
東京工業大学 蟹江憲史 (大学院社会理工学研究科・准教授)  
[政治学・国際関係論、博士(政策・メディア)]

サブテーマ2 環境面を強化したポストMDGsの可能性に関する研究  
(公財)地球環境戦略研究機関  
森秀行 (所長)[環境政策、修士(工学)]  
マーク・エルダー (ガバナンスと能力グループディレクター/上席研究員)  
[国際政治・比較政治・東アジアの政治経済、博士(政治学)]

サブテーマ3 ポストMDGs実現のための持続可能な開発のガバナンスに関する研究  
国際連合大学高等研究所  
プップムデオリベイラ・ジョセ(副所長兼シニアリサーチフェロー)[博士(計画学)]  
マウアーホファー・ヴォルカー(リサーチフェロー)[法学、博士(法学)]

### 海外研究機関・ネットワークなど

- IHDP Earth System Governance プロジェクトとの包括的国際連携
- Independent Research Forum on Post-2015への関与(IGES)

2

## 研究の背景と意義

<ミレニアム開発目標(MDGs)> **2015** <持続可能な開発目標(SDGs)>

### MDG7:環境の持続可能性確保

#### ✓具体的目標

1. 持続可能な開発の原則を各国の政策やプログラムに反映させ、環境資源の喪失を阻止し、回復を図る。
2. 生物多様性の損失を抑え、2010年までに、損失率の大幅な引き下げを達成する。
3. 2015年までに、安全な飲料水と基礎的な衛生施設を持続可能な形で利用できない人々の割合を半減させる。

#### 課題

- ✓途上国対象型
- ✓MDG7は明確な定量的目標ではない
- ✓他のMDGsに比べ森林問題や水問題、CO2排出等の課題に対する進捗は芳しいものではないとの評価
- ✓グローバル目標と国家目標の関係性

### これまでの議論

- リオ+20プロセスでコロンビア・ペルーによる提案、リオ+20の成果
- 多くの国・機関・市民社会が支持
- 2015年以降の開発目標と統合
- 持続可能な開発の3つの側面(経済、社会、環境)に統合的に対応
- 先進国・途上国を対象とする普遍的目標
- 新たな課題(エネルギー、防災等)も検討

### 論点

- ✓MDGsとの関係性
- ✓主要原則
  - 普遍性
  - 「共通だが差異のある責任」原則
- ✓対象課題・分野(エネルギー、新技術等)
- ✓測定手段・指標
- ✓実施手段(資金、能力開発、技術移転等)
- ✓ガバナンス

これらの全体的動向を把握し、地球システム変動に対応した、多角的視点・分野横断による研究が必要

## 課題調査型研究(フィージビリティ・スタディ)の目的と方法

目的:(平成25年度以降の)研究課題を特定し、国際的・学際的な問題解決型の研究計画を立案する

### 方法:

- 現地調査委、聞き取り調査、文献調査等による基礎調査
- 社会科学的手法による基礎的分析【国際政治学、社会学など】
- 関連分野の国際論議・研究動向の整理
- 国内検討委員会、国際研究員会による、研究課題の抽出及びリサーチクエスションの妥当性評価

## 研究成果(1) MDGsの評価と教訓

評価された点	改善すべき点
<p><b>内容:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・貧困レベル等の改善、開発援助の増進、多様なステークホルダーの参加促進(UNGA 2011a; UNDP 2011)</li> </ul> <p><b>目標設定:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・セクター間のリンケージ(Vandermoortele 2011)</li> <li>・明確で包括的な目標設定</li> </ul> <p><b>制度の在り方:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・効果的な実践を確保するための制度の存在</li> <li>・結果ベースのマネジメント方法(Result-base management)の定着化</li> </ul> <p><b>資金確保:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ODAの増加、途上国で貧困撲滅などに関する政策の優先順位を上げた(Moss 2010; Pollard et al. 2010; Manning 2010; Verdermoortele 2011)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各MDG目標における具体性と包括性欠如によりいくつかのMDGsは達成できず ⇒実効性の強化が必要</li> <li>・MDGsは“One size fits all”型 ⇒各国や各目標の達成度における「ギャップ」が存在(Verdenmoortele 2011)</li> <li>・MDGs達成後の目標、課題間のリンケージが欠如⇒その後のロードマップが見えない</li> </ul> <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>グローバルなベンチマークを設定</b></li> <li>・<b>行為主体間の連携や役割の強化</b></li> <li>・重要課題も含めた<b>ユニバーサルな目標設定と(国・地域・地方等)個別目標</b></li> <li>・中間目標(intermediate)目標を定め、<b>目標達成の基準</b>を明確化(Poku et al. 2011; Moss 2010; Verdenmoortele 2011; Guardian 2010; Koehler et al, 2012).</li> </ul>

5

## 研究成果(2) 環境面を強化した目標(SDGs)の在り方

- ・ **シンプル、分かりやすい、且つ、普遍的等**
- ・ **世界中のステークホルダーに対するメッセージを含有する目標にすべき。**
  - ✓ 政府、企業、市民など。
  - ✓ 姿勢やライフスタイルの変革のために動員することが重要。
- ・ 目標は、**ポジティブ、行動指向型、且つ、野心的**であるべき(例: 温室効果ガスの排出削減よりも再生可能なエネルギー目標)。
- ・ **各国の発展レベルにより**目標と指標のフォーカスは異なる。
- ・ 先進国、新興国、途上国などの区別は不変的ではない。10~20年後には異なる; **目標は革新的(progressive)**であるべき。
- ・ **国内格差**の検討も必要。
  - ✓ 国内において、「**共通だが差異ある責任**」原則を検討する必要あり(富裕層と貧困層の格差等)。
- ・ **伝統的価値**(例:『我唯足知(我唯足るを知る)』の概念)も基本的な哲学になり得る(各国事情による)



6

## SDGsの例: アジアで考えられる目標群

後発開発途上国		先進国	
重点課題	基本サービスへのアクセス	効率性の向上	ライフスタイルの変革
気候変動/ エネルギー	電力へのアクセス	生産過程におけるエネルギー効率の改善	日常の再生可能エネルギーの使用率
淡水	安全な飲料水へのアクセス	農業における水利用効率の改善	日常の淡水利用の削減(汚染水利用含む)
災害リスクの削減及びレジリエンス	安全な場所へのアクセスを有する人口率	強化された物理的なインフラを利用可能な人口率	レジリエントなインフラシステム(分散化・余剰)を利用可能な人口率
生物多様性/ 森林	森林等の地域自然資源へのアクセス	森林産物(紙等)生産における効率性の向上	森林産物の持続可能な利用(長期利用とリサイクル)
持続可能な都市	安全な住居へのアクセス	都市での必須サービスにおける効率性の向上	世帯・オフィスにおけるエネルギー利用の削減
持続可能な交通	基本的な近代交通サービスへのアクセス	多様な交通手段におけるエネルギー効率の改善	公共交通サービスの割合(輸送手段の転換、交通需要の管理)

## 研究成果(3) ガバナンスに関する考察

### ◆MDGsの教訓(ガバナンスの観点より)

- ・グローバル・レベルと国・ローカルレベルでの**相対的なリンケージが欠如**(勝間 2008)
- ・途上国の実際のニーズとのミスマッチ、**実施メカニズムの欠如**(Verdenmoortele 2009; Clemens et al. 2007; Saith 2006; Watkins 2008)
- ・援助は増加したが**ドナー中心型**(UNDP 2011; Holland 2008; Summer 2009)
- ・目標8(パートナーシップ)は、国際貿易、ODA、ITの**指標に偏り**(Holland 2008)
- ・MDGsをバックアップする国際制度(国連サミットや総会での定期的なトップダウンによるレビュー等)により、優先順位の高さが維持されたが、**効果的なモニタリングが欠如**

### ◆持続可能な開発ガバナンス(アジェンダ21、ヨハネスブルグ実施計画、リオ+20等)

- ・多くの国が持続可能な発展に関する国家戦略(NSDS)及び「持続可能な発展に関する国家委員会(NCSD)」を策定・設立したが、**関係省庁間の連携不足やマルチ・ステークホルダーの参加不足**等により機能していないものが多い
- ・リオ+20:
  - 持続可能な開発委員会に代わるハイレベル政治フォーラム(HLPF)の設立やUNEPの強化等に合意、多くのステークホルダーの参加による**「有志連合」の動きが顕著**
  - ただし、国やローカルレベル・ガバナンスに関する議論は希薄(グローバルが中心)

地球環境制約下における持続可能な開発目標(SDGs)の**目標策定プロセス及び実施を効果的に担保するためのガバナンス・メカニズムの在り方に関する検討が必要**

## ガバナンスに関する今後の研究課題

- 持続可能な開発に関する様々な問題に関して、**マルチ・レベル・ガバナンス**や政策統合がどのように存在し、ポストMDGsやSDGsの効果的実施のためにはどう強化されるべきか。
- ポストMDGs、SDGsの策定や実施にとって、「有志による連合 (Coalitions of the willing)」など新しい形のパートナーシップがうまれている背景をも考慮した上で、**実施を促進するためのメカニズム (調整、インセンティブ付与、情報共有等)**が必要であるか。
- 「**ガバナンス**」は**目標として扱われるべきか**。もしそうであれば、どのような指標が適切か。
- ポストMDGs、SDGsを実施するためにどれぐらいの**資金や投資**が必要であるか。また、各関連機関やステークホルダーがどのような役割を果たすべきか。

### (例)ガバナンスの目標・指標に関する研究課題

#### (1)SDGsの文脈におけるガバナンス目標と指標の検討

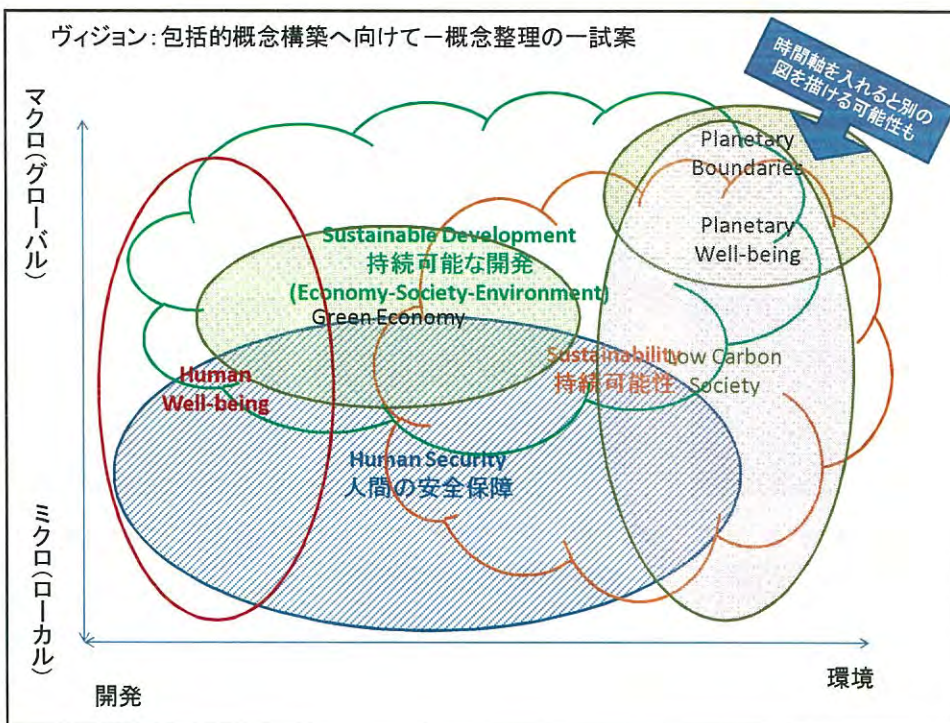
全体調整機能(役割の付与や全体プロセスの促進機能など)、適切な資源の確保(資金、人材など)、ステークホルダーの参加、主体ごとの説明責任、情報へのアクセスなど

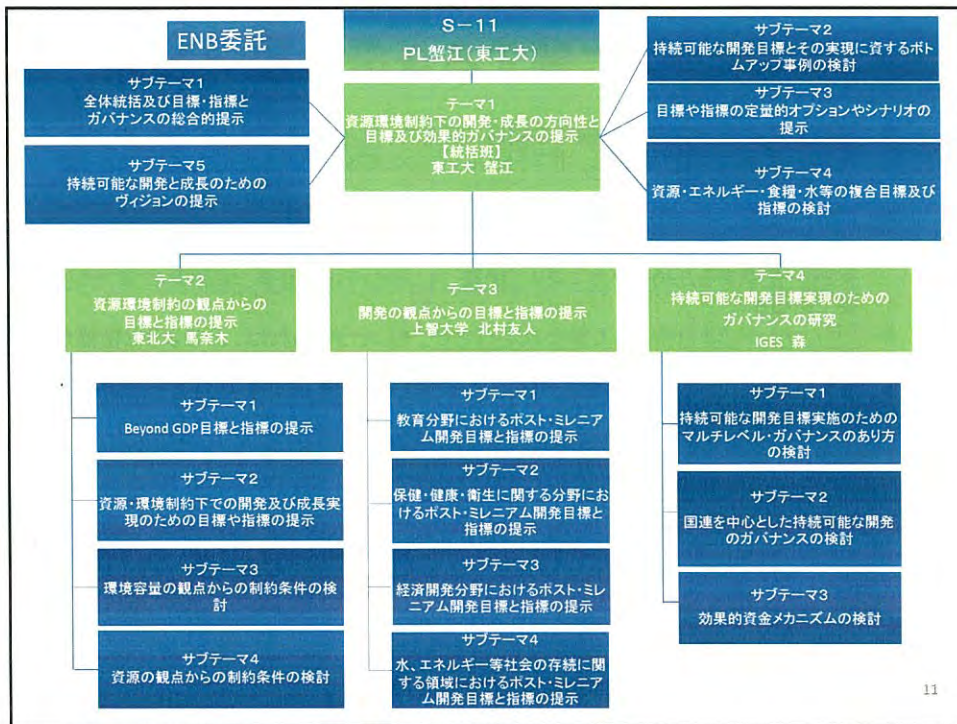
#### (2)ガバナンスに関する目標・指標の統合のあり方

MDG8の拡大・強化など独立したガバナンス目標の設置、他の目標への統合、あるいは、主体別の目標などでの対応

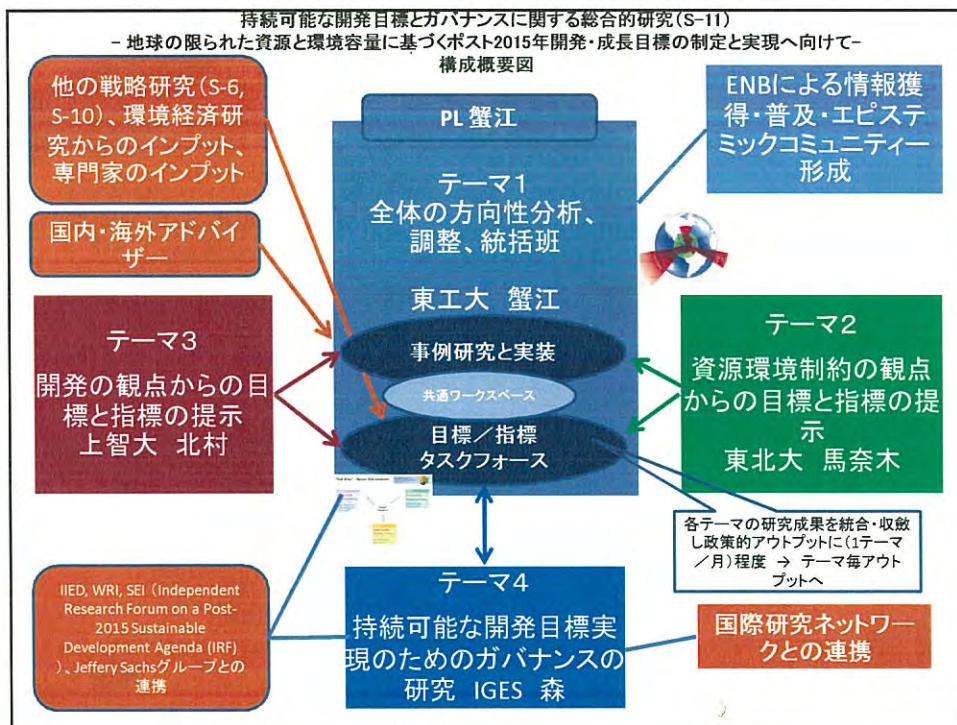
9

### ヴィジョン: 包括的概念構築へ向けて—概念整理の一試案





11

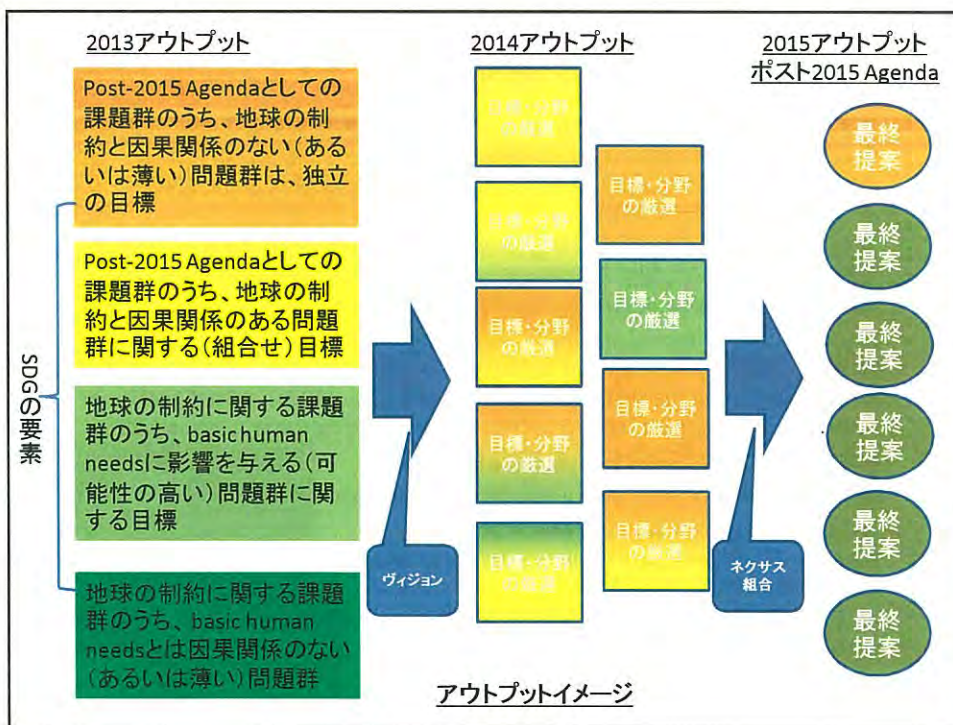


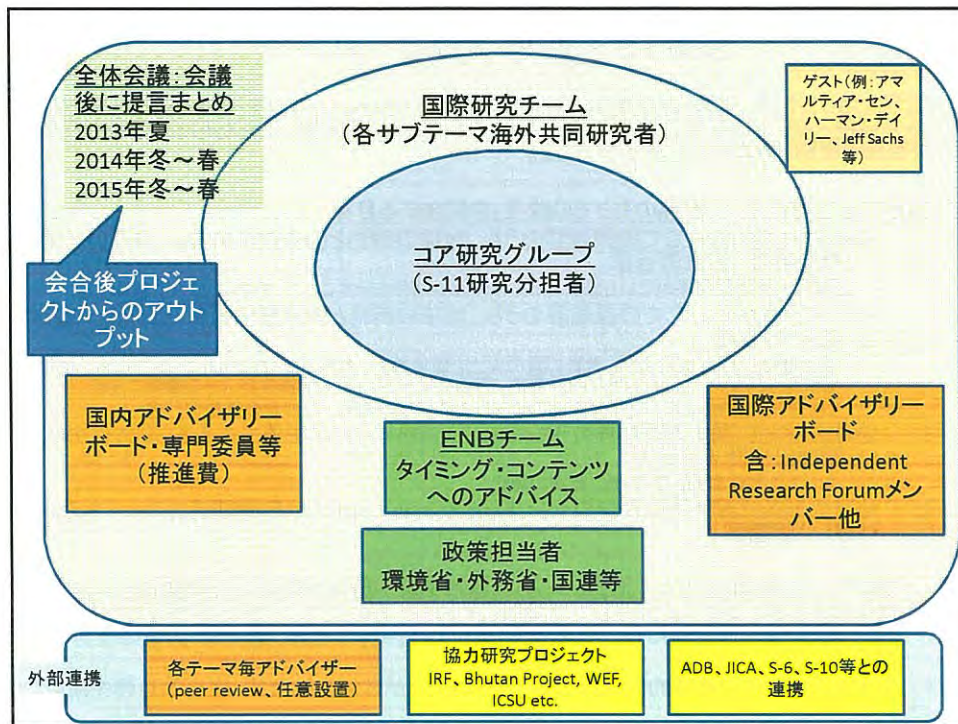
## SDGのあり方について

重要なポイントは、資源・環境制約がMDG的な(basic human needsを充足するための)目標の大前提となっている点。すなわち、SDの「3つの柱」という発想にこだわらず、柔軟な発想で目標と実施メカニズムを提示すること。

提示する目標体系-「限界のもとでの成長」を促進する目標

1. Post-2015 Agendaとしての課題群のうち、地球の制約と因果関係のない(あるいは薄い)問題群は、独立の目標
    - 【課題】一見因果関係がないと思われるものの因果関係を示すことで、目標群2、3に昇華する
  2. Post-2015 Agendaとしての課題群のうち、地球の制約と因果関係のある問題群に関する(組合せ)目標
    - 例えばマラリアと気候変動、教育の質の向上と環境教育、食糧とエコロジカルフットプリント、貧困悪化等。科学的根拠の明確な因果関係、不確実性の高い因果関係など、2~3種類に分割。
    - 【課題】因果関係をめぐる明確な科学的根拠と論理性の構築、組合せの表現の仕方
  3. 地球の制約に関する課題群のうち、basic human needsに影響を与える(可能性の高い)問題群に関する目標
    - たとえば気候変動と食糧・水、貧困の悪化
  4. 地球の制約に関する課題群のうち、basic human needsとは因果関係のない(あるいは薄い)問題群
- ・ プロジェクト全体としては、上記1~4の目標群を第一段階で提示(4は狭義のSDG議論の枠を超えるが、プロジェクトとしては検討しておく)。その上で、上記2,3を中心にPost-2015 AgendaとしてのSDG(とその評価指標および評価の仕方、あり方、実施の仕方)を提示する
  - ・ いずれの場合も、最終的には複数の目標の提示が可能な総合的・複合的目標を検討





## 成果

- 東京工業大学、(公財)地球環境戦略研究機関、国連大学高等研究所、「地球システム制約下のポストMDGs(持続可能性目標:SG)一さらなる課題の特定化へ向けて」、201地球システム制約下のポストMDGsにおける課題同定のためのワークショップ サマリー・レポート、2年12月
- 東京工業大学、(公財)地球環境戦略研究機関、国連大学高等研究所、「持続可能な開発目標(SDGs)に関する国際動向:各国アンケート調査の結果から」、Tokyo Tech/IGES/UNU-IAS Joint Briefing Paper 1、2013年1月
- Tokyo Institute of Technology (Tokyo Tech), Institute of Global Environmental Strategies (IGES), United Nations University – Institute of Advanced Studies (UNU-IAS), Current Outlook on the Sustainable Development Goals (SDGs): A Brief Analysis of Country Positions, Tokyo Tech/IGES/UNU-IAS Joint Briefing Paper 1, January 2013.
- POST2015プロジェクト(S-11), Integrating Sustainable Development Goals (SDGs) into a Post-2015 Development Agenda, POST 2015 Policy Brief, March 2013.
- SDGsオープン・ワーキング・グループのExpert Groupに参画(2013年3月、蟹江憲史)
- 地球システムガバナンス東京会議2013主催(2013年1月28日(月)–31日(木)、参加者約200名)





## 参考文献

- Agwu, F.A. (2011), Nigeria's Non-Attainment of the Millennium Development Goals and Its Implication for National Security. The IUP Journal of International Relations, Vol. V, No. 4, 2011
- Clements et al.(2007), The Trouble with the MDGs: Confronting Expectations of Aid and Development Success. *World Development* Vol. 35, No. 5, pp. 735-751.
- Chibba, M. (2011),The Millennium Development Goals: Key Current Issues and Challenges. *Development Policy Review*, 29 (1): 75-90
- EASTERLY, W. (2009), How the Millennium Development Goals are Unfair to Africa. *World Development* Vol. 37, No. 1, pp. 26-35.
- Gallopin, G. et al., (2006) 'Implications for Achieving the Millennium Development Goals'. In Diana Wall and Rudy Rabbings, *Ecosystems and Human Well-being: Policy Responses*. Washington D.C.: Island Press
- German Watch (2010) *The Millennium Development Goals and Climate Change: Taking Stock and Looking Ahead*
- Guardian (2010), 'After 2015, we need a new set of millennium development goals that apply to all counties'. Available HTTP: <http://www.guardian.co.uk/global-development/poverty-matters/2010/nov/03/millennium-development-goals-inequality>
- Jahan, S. (2010) 'The MDGs Beyond 2015', *IDS Bulletin* 41 (1): 51-59.
- Koehler, G. Gasper, D. Jolly, R. and Simane, M. (2012) 'Human Security and the Next Generation of Comprehensive Human Development Goals', Brighton: IDS
- Langford, M (2010), 'A poverty of rights: six ways to fix the MDGs', *IDS Bulletin*, 41(1), 2010, pp 83-91.
- Manning, R. (2010), 'The Impact and Design of the MDGs: Some Reflections'. *IDS Bulletin* Volume 41 Number 1 January.
- Moss, T. (2010), What Next for the Millennium Development Goals? *Global Policy* Volume 1 . Issue 2.
- Peterson, S. (2010), Rethinking the Millennium Development Goals for Africa. HKS Faculty Research Working Paper Series RWP10-046, John F. Kennedy School of Government, Harvard University
- Poku, N.K. and Jin Whitman (2011), 'The Millennium Development Goals and Development after 2015', *Third World Quarterly*, Vol. 32, No. 1, pp.181-198.
- Pollard, A.; Sumner, A.; Polato-Lopes, M. and de Mauroy, A. (2010) 'What should come after the Millennium Development Goals? Voices from the South'. Presented at after-dinner Roundtable discussion on 'The MDGs and Beyond 2015: ProPoor Policy in a Changing World' Wednesday 8 September, University of Manchester.
- Renwick, N. (2011), Millennium Development Goal 1: poverty, hunger and decent work in Southeast Asia. *Third World Quarterly*, Vol. 32, No. 1, 2011, pp 65-89.
- Saith, A. (2006), From Universal Values to Millennium Development Goals: Lost in Translation. *Development and Change* 37(6): 1167-1199
- Shepherd, A. (2008) 'Achieving the MDGs: The fundamentals'. ODI Briefing Paper 43. London: ODI.
- Stiglitz JE, Sen A, Fitoussi J et al. 2009, Report by the Commission on the Measurement of Economic Performance and Social Progress, Commission on the Measurement of Economic Performance and Social Progress [www.stiglitz-sen-fitoussi.fr](http://www.stiglitz-sen-fitoussi.fr)
- Sumner, A. (2009) 'Rethinking Development Policy: Beyond 2015', *The Broker* 14: 8-13, June.
- Sumner, A. and Tiwari, M. (2010) *Global Poverty to 2015 and Beyond: What has been the impact of the MDGs and what are the options for a Post-2015 global framework?* IDS Working Paper 348. Brighton: IDS.
- Vandermoortele, J. (2009), The MDG Conundrum: Meeting the Targets Without Missing the Point. *Development Policy Review*, 27 (4): 355-371.
- Vandermoortele, J. and Delamonica, E. (2010) 'Taking the MDGs Beyond 2015: Hasten Slowly', *IDS Bulletin* 41 (1): 60-69.
- Vandermoortele, J. (2011), 'If not the Millennium Development Goals, then what?'. *Third World Quarterly*, Vol. 32, No. 1, pp 9-25.
- Katsuma, Y. (2008), 'Millennium Development Goals Current Status and Issues: Sub-Saharan Africa', *Journal of Asia-Pacific Studies*, No. 10 (in Japanese).